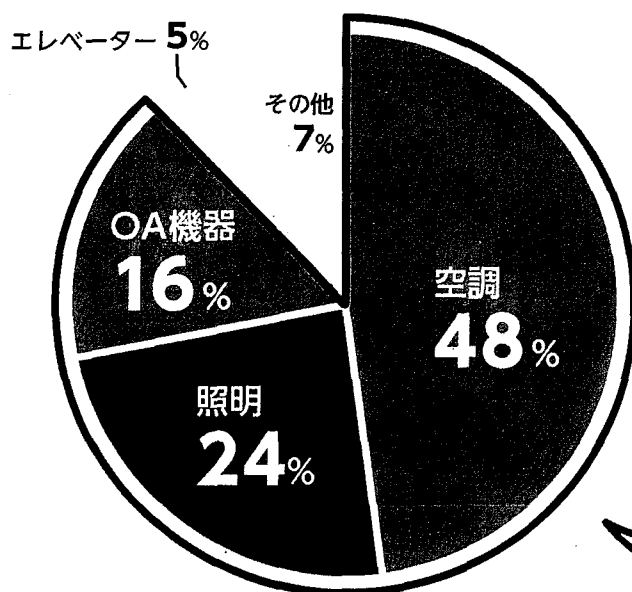
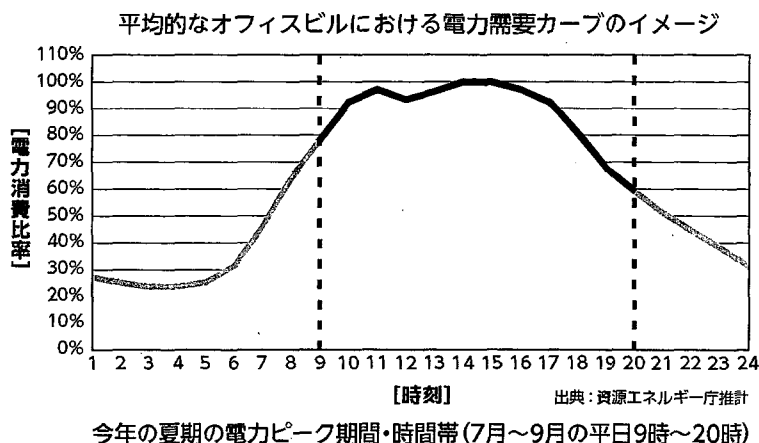


オフィスビルの場合

1日の電気の使われ方 (夏のピーク日)

平均的なオフィスビルにおいては、昼間（10時～17時）に高い電力消費が続きます。

夜間の消費電力は昼間に比べ30%程度になります。



平均的なオフィスビルにおける用途別電力消費比率

電力消費の内訳（ピーク時：14時前後）

電力消費のうち、空調用電力が約48%、照明およびOA機器（パソコン、コピー機等）が約40%を占めます。

これらを合わせると電力消費の約88%を占めるため、これらの分野における節電対策は特に効果的です。

空調、照明、OA機器で
約88%

オフィスビルの節電対策は、ピーク時間帯（平日9時～20時）における空調・照明・OA機器の電力使用を見直すことが非常に効果的です。

右記の節電行動計画をご記入ください。

● 節電行動計画

事業者名		節電目標
責任者名		節電実績

5つの基本アクションをお願いします		建物全体に対する 節電効果目安	実行 チェック	個別に計算 できる場合の 節電目標
照明	執務エリアの照明を半分程度間引きする。	13 %	☐ 1	%
	使用していないエリア(会議室、廊下等)は消灯を徹底する。	3 %	☐ 2	%
空調	執務室の室内温度を28℃とする(または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる)。	4 % (+2℃の場合)	☐ 3	%
	使用していないエリアは空調を停止する。	2 %	☐ 4	%
OA機器	長時間席を離れるときは、OA機器の電源を切るか、スタンバイモードにする。	3 %	☐ 5	%
さらに節電効果が大きい以下のアクションも検討してください				
空調	室内のCO ₂ 濃度の基準範囲内で、換気ファンの一定時間の停止、または間欠運転によって外気取入れ量を調整する(外気導入による負荷を減らすため)。	5 %	☐ 6	%
	日射を遮るために、ブラインド、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用する。	3 %	☐ 7	%
	冷凍機の冷水出口温度を高めに設定し、ターボ冷凍機、ヒートポンプ等の動力を削減する(セントラル式空調の場合)。	2 %	☐ 8	%
その他	複数の事業者で交代で休業する。 (7グループに分けて、輪番で週二日休業した場合)	14 %	☐ 9	%
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします				
照明	昼休みなどは完全消灯を心掛ける。		☐ 10	%
	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する(従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した照明電力量の約40%消費電力削減)。		☐ 11	%
空調	フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。		☐ 12	%
	電気室、サーバー室の空調設定温度が低すぎないかを確認し、見直す。		☐ 13	%
	室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。		☐ 14	%
	電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそちらを優先運転する。		☐ 15	%
	朝の涼しい時間帯から設備を起動したり、分散起動すること(複数台数の場合)により、立上げによるピーク電力上昇を抑制する。		☐ 16	%
コンセント 動力	エレベーターやエスカレーターの稼働を半減または停止する。		☐ 17	%
	電気式給湯機、給茶器、温水洗浄便座、エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。		☐ 18	%
	自動販売機の管理者の協力の下、冷却停止時間の延長等を行う。		☐ 19	%
その他	デマンド監視装置を導入し、設定を契約電力の△15%とし、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		☐ 20	%
	コージェネレーション設備を所有している場合は、発電優先で運転する。		☐ 21	%
従業員やテナントへの節電の啓発も大事です				
節電 啓発	ビル全体の節電目標と具体的アクションについて、関係全部門・テナントへ理解と協力を求める。		☐ 22	
	節電担当者を決め、責任者(ビルオーナー・部門長)と関係全部門・テナントが出席したフォローアップ会議や節電バトルを実施する。		☐ 23	
	従業員の夏期の休業・休暇の分散化・長期化を促す。		☐ 24	
	従業員やテナントに対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		☐ 25	
独自対策を追加する場合は下記に記入してください				
			☐ 26	%
			☐ 27	%
			☐ 28	%

※合計欄には実行する節電効果目安の合計を記入してください。
また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それを加えていただいても結構です。

合計 %

ご注意

●記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。
※節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

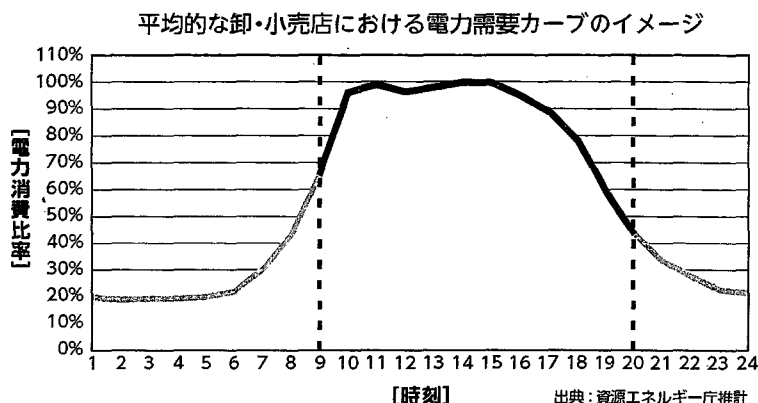
卸・小売店

の場合

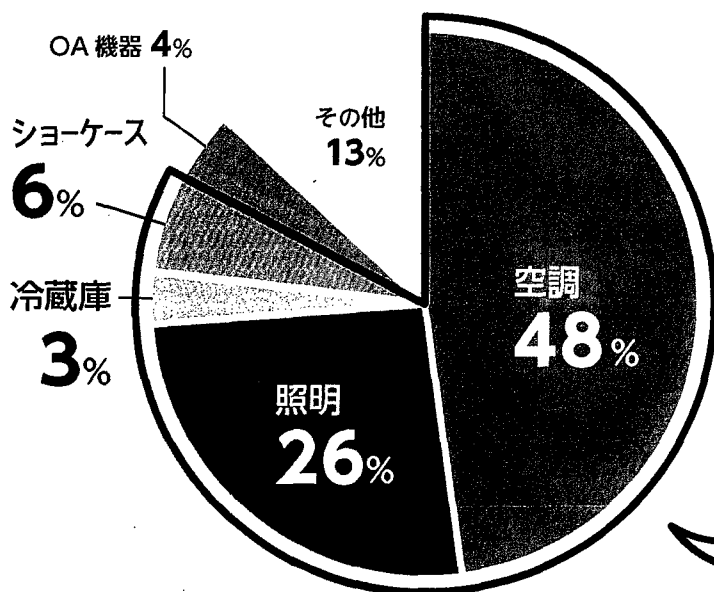
1日の電気の使われ方 (夏のピーク日)

平均的な卸・小売店においては、**昼間(9時～17時)に高い電力消費が続きます。**

夜間の消費電力は昼間に比べ**20%程度**になります。



今年の夏の電力ピーク期間・時間帯(7月～9月の平日9時～20時)



平均的な卸・小売店における用途別電力消費比率

電力消費の内訳 (ピーク時:14時前後)

電力消費のうち、空調が約48%、照明が約26%、冷凍冷蔵(冷蔵庫、ショーケース等)が約9%を占めます。これらを合わせると電力消費の約**83%**を占めるため、これらの分野における節電対策は特に効果的です。

空調、照明、冷凍冷蔵で
約83%

卸・小売店の節電対策は、ピーク時間帯(平日9時～20時)における**空調、照明、冷凍冷蔵(冷蔵庫、ショーケース等)の電力使用を見直すことが非常に効果的です。**

右記の節電行動計画をご記入ください。

● 節電行動計画

事業者名		節電目標
責任者名		節電実績

4つの基本アクションをお願いします		建物全体に対する 節電効果目安	実行 チェック	個別に計算 できる場合の 節電目標
照明	店舗の照明を半分程度間引きする。	13 %	☐ 1	%
	使用していないエリア(事務室、休憩室等)や不要な場所(看板、外部照明、駐車場)の消灯を徹底する。	2 %	☐ 2	%
空調	店舗の室内温度を28℃とする(または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる)。	4 % (+2℃の場合)	☐ 3	%
冷凍 冷蔵	業務用冷蔵庫の台数を限定、冷凍・冷蔵ショーケースの消灯、凝縮器の洗浄を行う。	1 %	☐ 4	%
さらに節電効果が大きい以下のアクションも検討してください				
空調	室内のCO ₂ 濃度の基準範囲内で、換気ファンの一定時間の停止、または間欠運転によって外気取り入れ量を調整する(外気導入による負荷を減らすため)。	8 %	☐ 5	%
その他	ピーク時間を避けるため、営業時間や営業日を短縮・シフトする。 (系列5店舗間で輪番平日一日休業または営業時間短縮した場合。)	10 %	☐ 6	%
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします				
照明	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する(従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した照明電力量の約40%消費電力削減)。		☐ 7	%
空調	使用していないエリア(事務室、休憩室等)は空調を停止する。		☐ 8	%
	フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。		☐ 9	%
	日射を遮るために、ブラインド、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用する。		☐ 10	%
	搬入口やバックヤードの扉を必ず閉め、売場の冷気流出を防止する。		☐ 11	%
	電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそちらを優先運転する。		☐ 12	%
冷凍 冷蔵	調理機器、冷蔵庫の設定温度の見直しを行う。		☐ 13	%
	冷凍・冷蔵ショーケースの吸込み口と吹出し口には商品を置かないようにすると共に、定期的に清掃する。		☐ 14	%
	オープン型の冷凍・冷蔵ショーケースについては、冷気が漏れないようビニールカーテンなどを設置する。		☐ 15	%
コンセント 動力	デモンストレーション用の家電製品などはできる限り電源をオフにする。		☐ 16	%
	電気式給湯機、給茶器、温水洗浄便座、エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。		☐ 17	%
	自動販売機の管理者の協力の下、冷却停止時間の延長等を行う。		☐ 18	%
その他	デマンド監視装置を導入し、設定を契約電力の△15%とし、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		☐ 19	%
	コージェネレーション設備を設置している場合は、発電優先で運転する。		☐ 20	%
従業員への節電の啓発も大事です				
節電 啓発	店舗全体の節電目標と具体的アクションについて、従業員へ理解と協力を求める。		☐ 21	
	節電担当者を任命し、責任者(店長、部門長など)と関係全部門が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。		☐ 22	
	従業員に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		☐ 23	
独自対策を追加する場合は下記に記入してください				
			☐ 24	%
			☐ 25	%
			☐ 26	%

※合計欄には実行する節電効果目安の合計を記入してください。
また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それを加えていただいても結構です。

合計 %

ご注意

●記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。

※節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

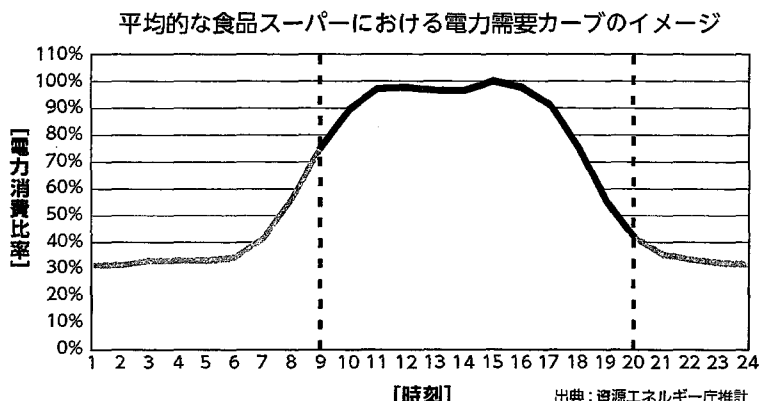
食品スーパー

の場合

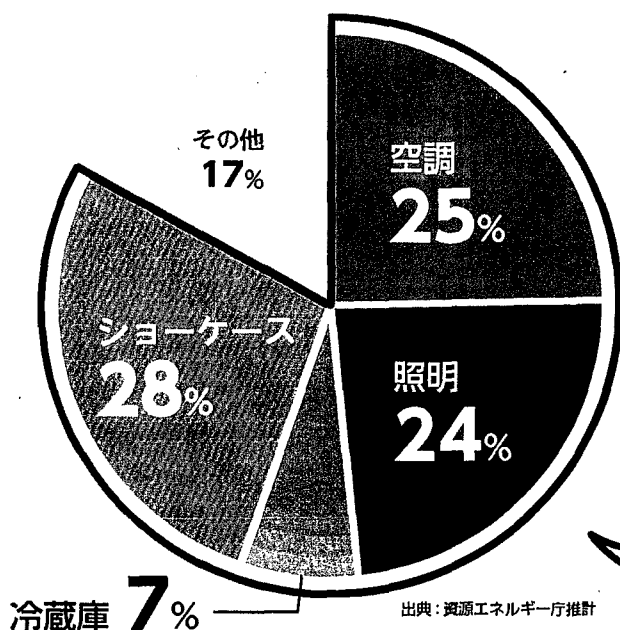
1日の電気の使われ方 (夏期のピーク日)

平均的な食品スーパーにおいては、昼間(10時～17時)に高い電力消費が続きます。

夜間の消費電力は昼間に比べ30%程度になります。



今年の夏期の電力ピーク期間・時間帯(7月～9月の平日9時～20時)



平均的な食品スーパーにおける用途別電力消費比率

※端数処理により合計値が100%とすることがあります。

電力消費の内訳(ピーク時:14時前後)

電力消費のうち、冷凍冷蔵(冷蔵庫、ショーケース等)が約35%、空調および照明(一般照明、ショーケース用照明)が約49%を占めます。

これらを合わせると電力消費の約84%を占めるため、これらの分野における節電対策は特に効果的です。

空調、照明、冷凍冷蔵で
約84%

食品スーパーの節電対策は、ピーク時間帯(平日9時～20時)における空調、照明、冷凍冷蔵(冷蔵庫、ショーケース等)の電力使用を見直すことが非常に効果的です。

右記の節電行動計画をご記入ください。

● 節電行動計画

事業者名		節電目標
責任者名		節電実績

5つの基本アクションをお願いします		建物全体に対する 節電効果目安	実行 チェック	個別に計算 できる場合の 節電目標
照明	店舗の照明を半分程度間引きする。	11 %	☐ 1	%
	使用していないエリア(事務室、休憩室等)や不要な場所(看板、外部照明、駐車場)の消灯を徹底する。	2 %	☐ 2	%
空調	店舗の室内温度を28℃とする(または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる)。	1 % (+2℃の場合)	☐ 3	%
	使用していないエリア(事務室、休憩室等)は空調を停止する。	1 %	☐ 4	%
冷凍 冷蔵	業務用冷凍・冷蔵庫の台数を限定、冷凍・冷蔵ショーケースの消灯、凝縮器の洗浄を行う。	5 %	☐ 5	%
さらに節電効果が大きい以下のアクションも検討してください				
空調	室内のCO ₂ 濃度の基準範囲内で、換気ファンの一定時間の停止、または間欠運転によって外気取り入れ量を調整する(外気導入による負荷を減らすため)。	4 %	☐ 6	%
その他	ピーク時間を避けるため、営業時間や営業日を短縮・シフトする。 (系列5店舗間で輪番平日一日休業または営業時間短縮した場合。)	10 %	☐ 7	%
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします				
照明	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する(従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した照明電力量の約40%消費電力削減)。		☐ 8	%
空調	日射を遮るために、ブラインド、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用する。		☐ 9	%
	フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。		☐ 10	%
	室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。		☐ 11	%
	搬入口やバックヤードの扉を必ず閉め、売場の冷気流出を防止する。		☐ 12	%
	電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそちらを優先運転する。		☐ 13	%
冷凍 冷蔵	冷凍・冷蔵ショーケースの吸込み口と吹出し口には商品を置かないようにすると共に、定期的に清掃する。		☐ 14	%
	オープン型の冷凍・冷蔵ショーケースに冷気流出防止用ビニールカーテンを設置する。		☐ 15	%
	調理機器、業務用冷凍・冷蔵庫の設定温度の見直しを行う。		☐ 16	%
コンセント 動力	電気式給湯機、給茶器、温水洗浄便座、エアタオル等のプラグコンセントから抜く。		☐ 17	%
	自動販売機の管理者の協力の下、冷却停止時間の延長等を行う。		☐ 18	%
その他	デマンド監視装置を導入し、設定を契約電力の△15%とし、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		☐ 19	%
	コージェネレーション設備を設置している場合は、発電優先で運転する。		☐ 20	%
従業員への節電の啓発も大事です				
節電 啓発	店舗全体の節電目標と具体的なアクションについて、従業員へ理解と協力を求める。		☐ 21	
	節電担当者を決め、責任者(店長・部門長)と関係全部門が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。		☐ 22	
	従業員に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		☐ 23	
独自対策を追加する場合は下記に記入してください				
			☐ 24	%
			☐ 25	%
			☐ 26	%

※合計欄には実行する節電効果目安の合計を記入してください。
また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それを加えていただいても結構です。

合計 %

ご注意

●記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものにならないようご注意ください。
※節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

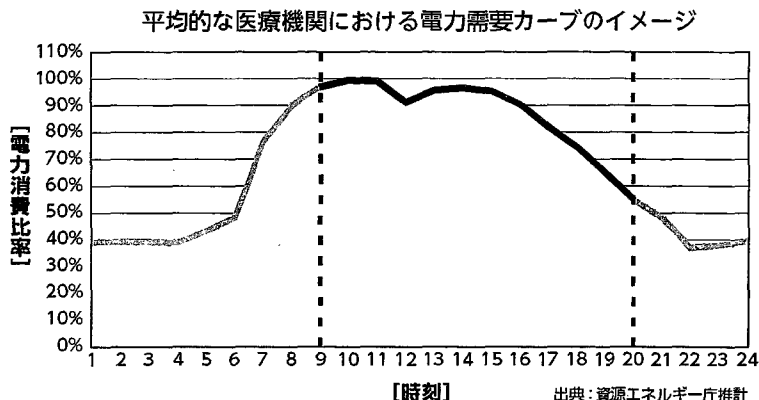
医療機関

の場合

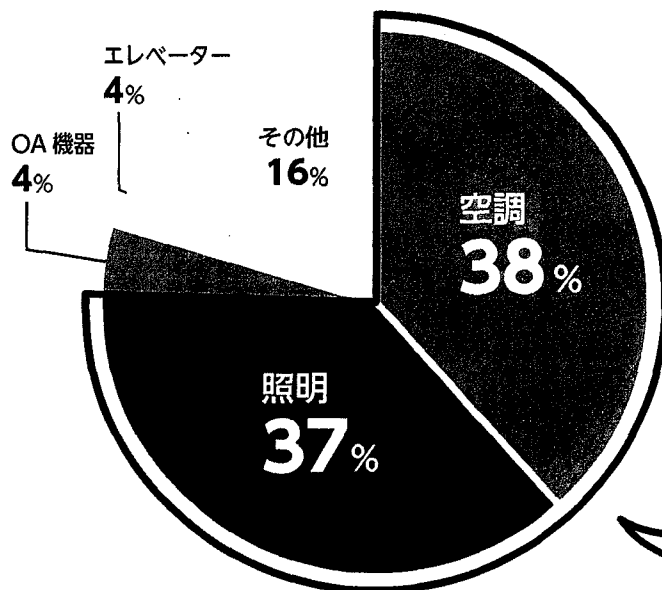
1日の電気の使われ方 (夏のピーク日)

平均的な医療機関(病院・診療所等)においては、昼間(9時～16時)に高い電力消費が続きます。

夜間の消費電力は昼間に比べ40%程度になります。



今年の夏の電力ピーク期間・時間帯(7月～9月の平日9時～20時)



出典：資源エネルギー庁推計

平均的な医療機関における用途別電力消費比率

※端数処理により合計値が100%とならないことがあります。

電力消費の内訳(ピーク時:14時前後)

電力消費のうち、空調が約38%、照明が約37%を占めます。

これらを合わせると電力消費の約75%を占めるため、これらの分野における節電対策は特に効果的です。

空調、照明で
約75%

医療機関の節電対策は、ピーク時間帯(平日9時～20時)における
空調、照明の電力使用を見直すことが非常に効果的です。

右記の節電行動計画をご記入ください。

● 節電行動計画

事業者名		節電目標	
責任者名		節電実績	

5つの基本アクションをお願いします		建物全体に 対する 節電効果目安	実行 チェック	個別に計算 できる場合の 節電目標
照明	事務室の照明を半分程度間引きする。	4 %	☐ 1	%
	使用していないエリア(外来部門、診療部門の診療時間外)は消灯を徹底する。	4 %	☐ 2	%
空調	病棟、外来、診療部門(検査、手術室等)、厨房、管理部門毎に適切な温度設定を行う。	1 %	☐ 3	%
	使用していないエリア(外来、診療部門等の診療時間外)は空調を停止する。	1 %	☐ 4	%
	日射を遮るために、ブラインド、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用する。	1 %	☐ 5	%
さらに節電効果が大きい以下のアクションも検討してください				
空調	室内のCO ₂ 濃度の基準範囲内で、換気ファンの一定時間の停止、または間欠運転によって外気取り入れ量を調整する(外気導入による負荷を減らすため)。	2 %	☐ 6	%
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします				
照明	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する(従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した照明電力量の約40%消費電力削減)。		☐ 7	%
	病棟では可能な限り天井照明を消灯し、スポット照明を利用する。		☐ 8	%
空調	フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。		☐ 9	%
	搬入口の扉やバックヤードの扉を必ず閉め冷気流出を防止する。		☐ 10	%
	電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそちらを優先運転する。		☐ 11	%
コンセント 動力	調理機器、冷蔵庫の設定温度の見直しを行う。		☐ 12	%
	電気式オートクレープの詰め込み過ぎの防止、定期的な清掃点検を実施する。		☐ 13	%
	電気式給湯機、給茶器、温水洗浄便座、エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。		☐ 14	%
	自動販売機の管理者の協力の下、冷却停止時間の延長等を行う。		☐ 15	%
その他	デマンド監視装置を導入し、設定を契約電力の△15%とし、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		☐ 16	%
	コージェネレーション設備を設置している場合は、発電優先で運転する。		☐ 17	%
医療機関関係者への節電の啓発も大事です				
節電 啓発	節電目標と具体策について、職員全体に周知徹底し実施する。		☐ 18	
	節電担当者を任命し、責任者(病院長・事務局長など)と関係全部門が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを定期的に実施する。		☐ 19	
	医療機関関係者に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		☐ 20	
独自対策を追加する場合は下記に記入してください				
			☐ 21	%
			☐ 22	%
			☐ 23	%

※合計欄には実行する節電効果目安の合計を記入してください。
また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それを加えていただいても結構です。

合計 %

ご注意

●記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものにならないようご注意ください。

※節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

ホテル・旅館

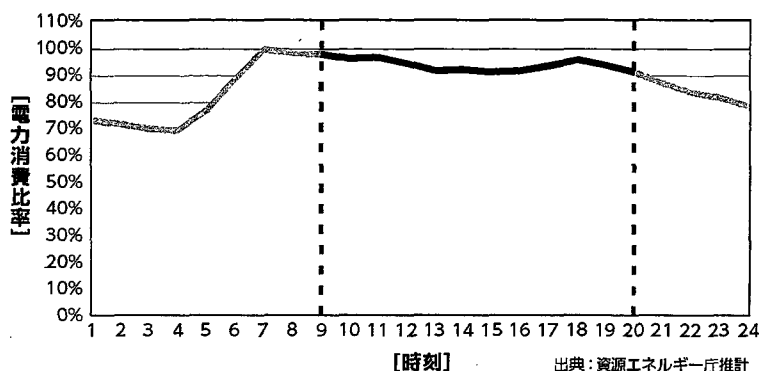
の場合

1日の電気の使われ方 (夏期のピーク日)

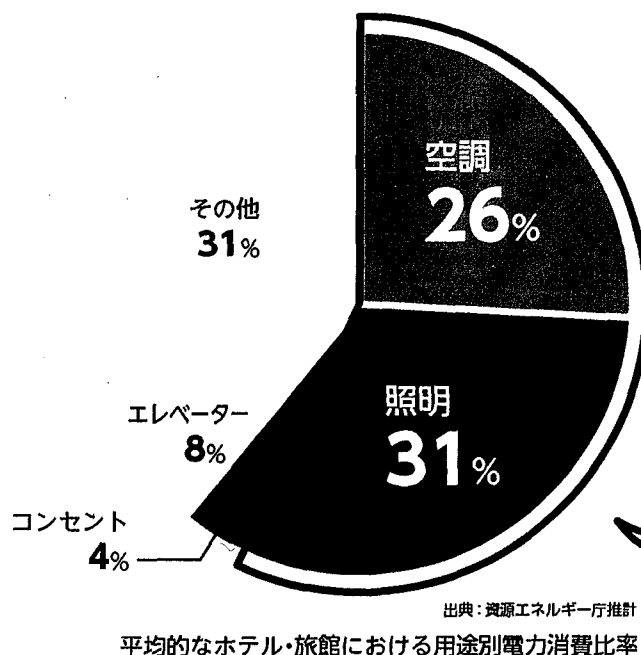
平均的なホテル・旅館においては、23時以降の深夜～朝6時頃の夜間以外は高い電力消費が続きます。

夜間の消費電力は昼間に比べ**70%程度**になり、昼夜間格差は小さいです。

平均的なホテル・旅館における電力需要カーブのイメージ



今年の夏期の電力ピーク期間・時間帯(7月～9月の平日9時～20時)



電力消費の内訳 (ピーク時:14時前後)

電力消費のうち、空調が約26%、照明が約31%を占めます。(左グラフの照明比率の構成としては、概ね、客室:客室以外=1:7となっています。)

これらを合わせると電力消費の約**57%**を占めるため、これらの分野における節電対策は特に効果的です。

空調、照明で
約**57%**

ホテル・旅館の節電対策は、ピーク時間帯(平日9時～20時)における**空調、照明**の電力使用を見直すことが非常に効果的です。

右記の節電行動計画をご記入ください。

● 節電行動計画

事業者名		節電目標	
責任者名		節電実績	

3つの基本アクションをお願いします			建物全体に対する 節電効果目安	実行 チェック	個別に計算 できる場合の 節電目標
照明	客室以外のエリアの照明を半分程度間引きする。	13 %	☐ 1	%	
空調	使用していないエリア(会議室、宴会場等)は空調を停止する。	1 %	☐ 2	%	
	ロビー、廊下、事務室等の室内温度を28℃とする(または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる)。	1 % (+2℃の場合)	☐ 3	%	
さらに節電効果が大きい以下のアクションも検討してください					
空調	客室外気給気/浴室排気システムの場合は、10時～17時の送風量を50%風量、または停止する。	2 %	☐ 4	%	
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします					
照明	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する(従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した照明電力量の約40%消費電力削減)。		☐ 5	%	
	宴会場の準備、片付けの際には一般照明のみ点灯し、演出照明(シャンデリア等)は消灯する。		☐ 6	%	
	宿泊客への協力要請を通じて、客室の照明を抑制する(使用していない照明の消灯等)。		☐ 7	%	
空調	厨房排気を確認し適正な風量に調節する(過大な場合は外気を誘引してしまうため)。		☐ 8	%	
	車の動きが少ない時間帯の駐車場給排気ファンの間欠運転をする。		☐ 9	%	
	電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそちらを優先運転する。		☐ 10	%	
	日射を遮るために、ブラインド、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用する。		☐ 11	%	
	宿泊客への協力要請を通じて、客室の空調を抑制する(温度設定を上げる等)。		☐ 12	%	
コンセント 動力	エレベーターは10時～17時(空室時)に運転台数を削減する。		☐ 13	%	
	客室冷蔵庫のスイッチは「切」で待機する。		☐ 14	%	
	給湯循環ポンプの10時～17時(空室時)の流量削減または停止する(中央給湯方式)。		☐ 15	%	
	電気式給湯機、給茶器、温水洗浄便座、エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。		☐ 16	%	
	自動販売機の管理者の協力の下、冷却停止時間の延長等を行う。		☐ 17	%	
その他	デマンド監視装置を導入し、設定を契約電力の△15%とし、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		☐ 18	%	
	コージェネレーション設備を設置している場合は、発電優先で運転する。		☐ 19	%	
従業員や宿泊客への節電の啓発も大事です					
節電 啓発	施設全体の節電目標と具体策について、従業員全体に周知徹底し実施する。		☐ 20		
	節電担当者を任命し、責任者(支配人・部門長など)と関係全部門が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを定期的に実施する。		☐ 21		
	館内での貼り紙などを通じて宿泊客へ節電を呼びかける。		☐ 22		
	従業員に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		☐ 23		
独自対策を追加する場合は下記に記入してください					
			☐ 24	%	
			☐ 25	%	
			☐ 26	%	

※合計欄には実行する節電効果目安の合計を記入してください。
また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それを加えていただいても結構です。

合計 %

ご注意

●記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。

※節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

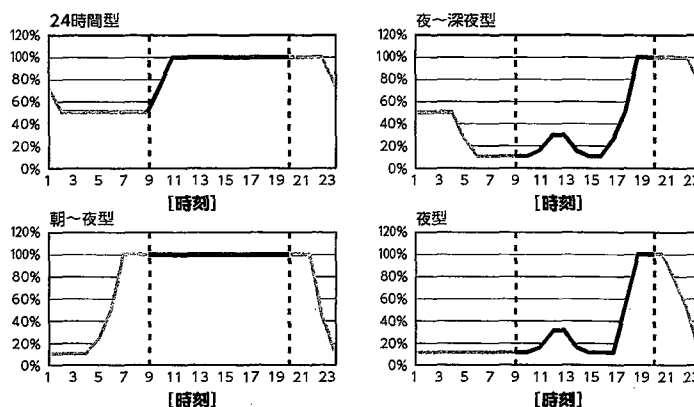
飲食店

の場合

1日の電気の使われ方 (夏期のピーク日)

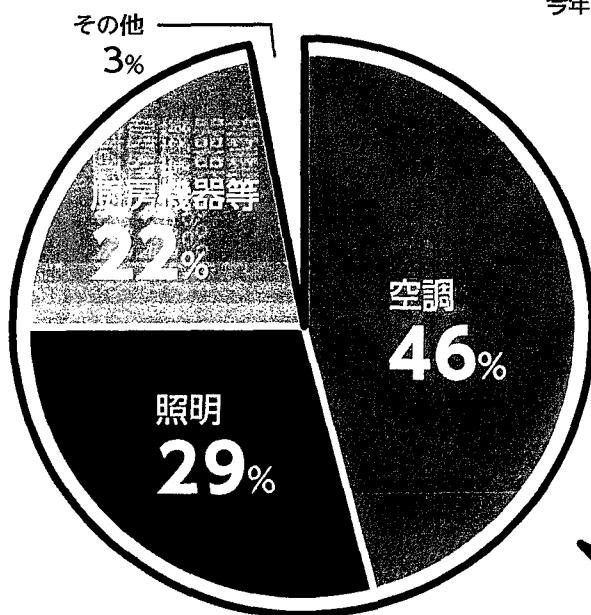
24時間型・昼型・夜型など営業種別により営業時間帯が異なり、外気温や入客状況に応じて電力消費の状況が大きく異なります。
営業時間外の消費電力は営業時間の最大消費電力に比べ、10%程度になります。

飲食店における電力需要カーブの事例



出典：資源エネルギー庁推計

今年の夏期の電力ピーク期間・時間帯(7月～9月の平日9時～20時)



出典：資源エネルギー庁推計

飲食店における用途別電力消費比率の事例

電力消費の内訳(ピーク時:20時前後)

電力消費のうち、空調が約46%、照明が約29%、厨房機器等(給湯・冷蔵庫・ショーケース等)で約22%を占めます。
これらを合わせると電力消費の約97%を占めるため、これらの分野における節電対策は特に効果的です。

空調、照明、厨房機器等で

約97%

飲食店の節電対策は、ピーク時間帯(平日9時～20時)における
空調・照明・厨房機器等(給湯・冷蔵庫・ショーケース等)の
電力使用を見直すことが非常に効果的です。

※ピーク時間帯が営業時間外の場合でも、ピーク時間帯の節電にご協力ください。

右記の節電行動計画をご記入ください。

● 節電行動計画

事業者名		節電目標
責任者名		節電実績

3つの基本アクションをお願いします		ピーク時間の 電力消費内訳 【構成率%】	×	システム毎の 節電効果目安	=	建物全体に対する 節電効果目標 【削減率%】	実行 チェック	個別に計算 できる場合の 節電目標
照明	使用していないエリア(事務室等)や不要な場所(看板、外部照明等)の消灯を徹底し、客席の照明を半分程度間引きする。	29 %	×	40 %	=	11.6 %	☐ 1	%
空調	店舗の室内温度を28℃とする(または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる)。	46 %	×	8 %	=	3.7 %	☐ 2	%
厨房	冷凍冷蔵庫の庫内は詰め込みすぎず、庫内の整理を行うとともに、温度調節等を実施する。	22 %	×	3 %	=	0.7 %	☐ 3	%
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします								
照明	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する(従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した照明電力量の約40%消費電力削減)。						☐ 4	%
空調	使用していないエリアは空調を停止する。						☐ 5	%
	フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。						☐ 6	%
	日射を遮るために、ブラインド、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用する。						☐ 7	%
	室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。						☐ 8	%
厨房	使用していない機器(調理機器など)のプラグを抜く。						☐ 9	%
	調理機器の設定温度の見直しを行う。						☐ 10	%
	業務用冷蔵庫のドアの開閉回数や時間を低減し、冷気流出防止ビニールカーテンを設置する。						☐ 11	%
コンセント 動力	電気式給湯機、給茶器、温水洗浄便座、エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。						☐ 12	%
その他	デマンド監視装置を導入し設定を契約電力の△15%とし、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。						☐ 13	%
従業員への節電の啓発も大事です								
節電 啓発	店舗全体の節電目標と具体的アクションについて、従業員へ理解と協力を求める。						☐ 14	
	節電担当を決め、責任者(店長)と関係全部門が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。						☐ 15	
	従業員に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。						☐ 16	
独自対策を追加する場合は下記に記入してください								
							☐ 17	%
							☐ 18	%
							☐ 19	%

※合計欄には実行する節電効果目安の合計を記入してください。また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それを加えていただいても結構です。

合計 %

ご注意

- 記載している節電効果は、設備毎の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。そのため、設備内容や利用状況等によって効果は異なる場合があります。
- 空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。
- ※節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

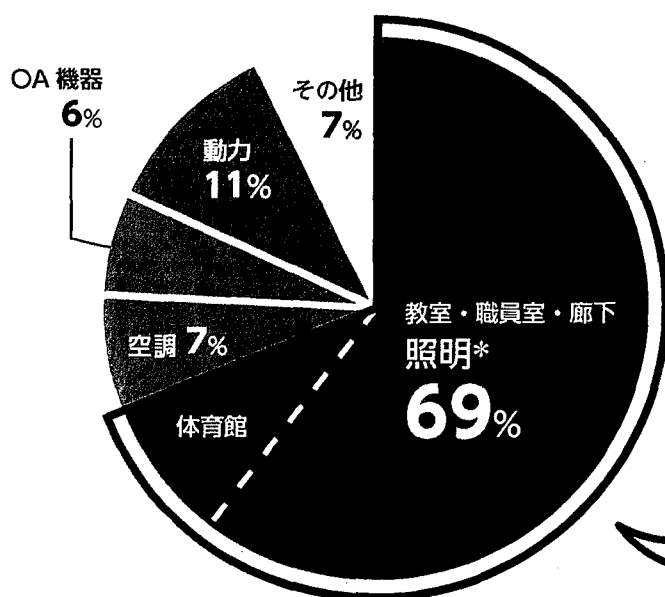
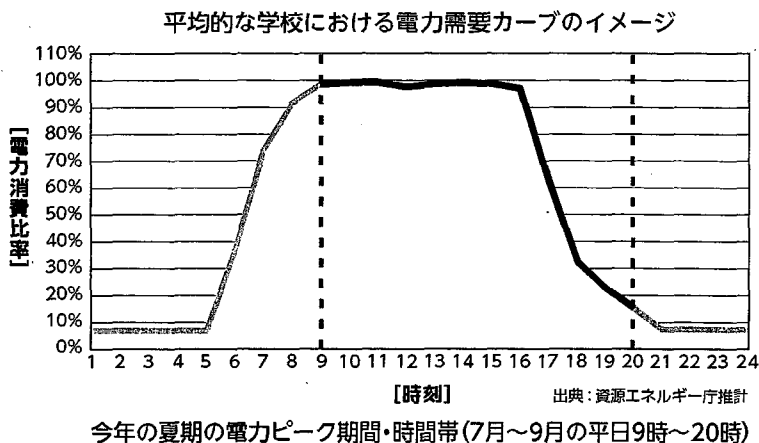
学校

の場合

1日の電気の使われ方 (夏期のピーク日)

平均的な学校においては、昼間
(9時～17時)に高い電力消費が
続きます。

夜間の消費電力は昼間に比べ
10%程度になります。



平均的な学校の夏期就学日ピーク時の用途別電力消費比率

※夏休み期間は、教室と体育館の照明比率が概ね逆転します。

電力消費の内訳

(夏期就学日のピーク時：14時前後)

夏期の就学日におけるピーク時は、照明が
約69%を占めています。

小口需要家(小、中、高校)においては、教室
部分に空調を設置していない場合が多いた
め、照明の比率が高くなっています。ただし、
空調を設置している学校については空調の
比率が高くなることに留意が必要です。

*照明の比率は、体育館：教室・職員室・廊下=1：6となっています。

照明で 約69%

学校の節電対策は、ピーク時間帯(平日9時～20時)における
照明の電力使用を見直すことが非常に効果的です。

右記の節電行動計画をご記入ください。

● 節電行動計画

事業者名		節電目標
責任者名		節電実績

照明での基本アクションをお願いします		建物全体に対する 節電効果目安	実行 チェック	個別に計算 できる場合の 節電目標
照明	教室、職員室、廊下の照明を間引きする。	16 % (約4割減の場合)	☐ 1	%
	点灯方法や使用場所を工夫しながら体育館の照明を1/4程度間引きする。	2 %	☐ 2	%
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします				
照明	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する(従来型蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した照明電力量の約40%消費電力削減)。		☐ 3	%
空調	使用していないエリア(教室、音楽室等)は空調を停止する。		☐ 4	%
	日射を遮るために、緑のカーテン、ブラインド、遮熱フィルム、ひさし、すだれを活用する。		☐ 5	%
	フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。		☐ 6	%
	特別教室(音楽室、コンピュータ室等)は連続利用する。		☐ 7	%
	電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそちらを優先運転する。		☐ 8	%
コンセント 動力	プールの水位調整のための給排水を少なくするよう工夫する。		☐ 9	%
	プール用水のろ過フィルタを清掃する。		☐ 10	%
	待機電力を削減する。 (特に夏休み中はパソコン、テレビ等のプラグをコンセントから抜く。)		☐ 11	%
	献立や調理の工夫により食器等を減らして食器洗浄機を使用したり、熱風保管庫の使用時間帯をシフトするなど、ピーク電力を抑制する工夫をする。		☐ 12	%
その他	手洗い等、水の流し放し、水の出しすぎに注意する。		☐ 13	%
	節水こま、泡沫水洗を使用する。		☐ 14	%
学校関係者への節電の啓発も大事です				
節電 啓発	児童・生徒等に対する節電教育を行い、児童・生徒等の自発的な活動を推進する。		☐ 15	%
	節電担当を決め、責任者(校長先生等)と関係者が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。		☐ 16	%
	学校関係者に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		☐ 17	%
独自対策を追加する場合は下記に記入してください				
			☐ 18	%
			☐ 19	%
			☐ 20	%

※合計欄には実行する節電効果目安の合計を記入してください。
また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それを加えていただいても結構です。

●記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意識しすぎるあまり、指導上、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものにならないようご注意ください。
※節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

ご注意

合計 %

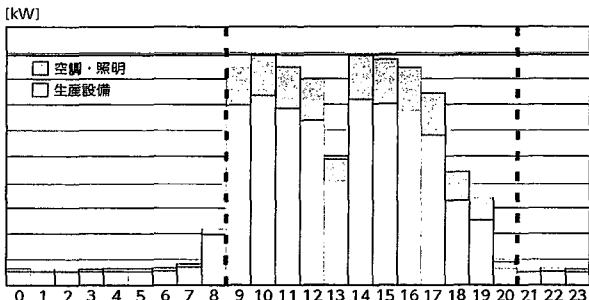
製造業

の場合

1日の電気の使われ方（夏期のピーク日）

●昼間操業の需要家（一般的な稼働時間）

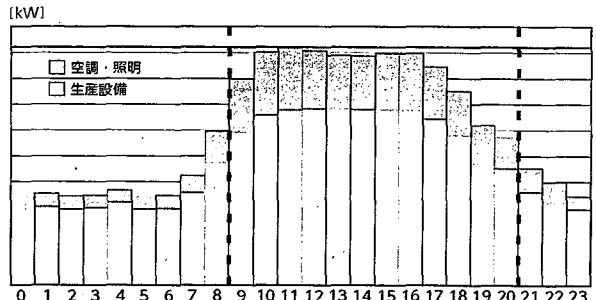
主な業種：金属加工、自動車部品製造、
電気・一般機械製造（組立）など
負荷設備：生産機械、電気炉、空調・照明など



【時刻】 出典：資源エネルギー庁推計
今年の夏期の電力ピーク期間・時間帯（7月～9月の平日9時～20時）

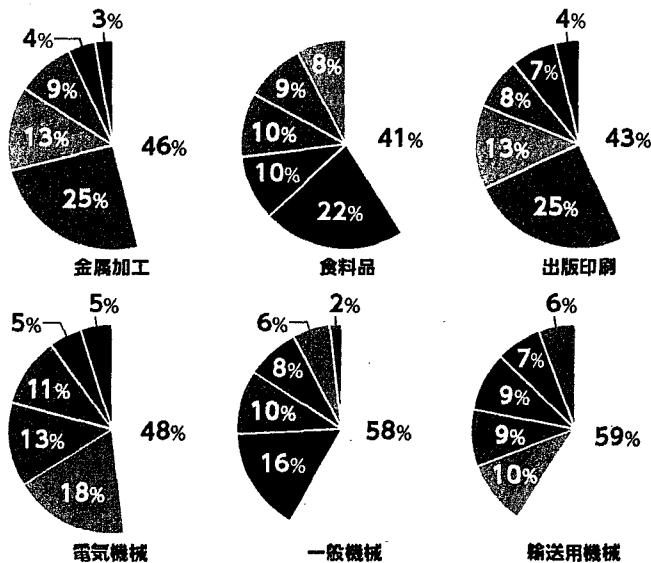
●昼夜連続操業の需要家（高い稼働時間）

主な業種：食品加工、電気・半導体製造など
負荷設備：生産機械、空調・照明、クリーンルーム、
冷凍・冷蔵設備など



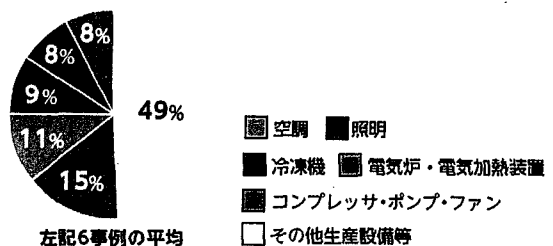
【時刻】 出典：資源エネルギー庁推計
今年の夏期の電力ピーク期間・時間帯（7月～9月の平日9時～20時）

業種別電気負荷設備容量構成比（例）



電力消費の内訳（ピーク時：14時前後）

電力消費のうち、生産設備が占める割合が高いため、生産工程の節電対策は特に効果的です。業種（生産品目）や必要な生産環境（空調）に応じて電力消費形態が異なります。



製造業の節電対策は、ピーク時間帯（平日9時～20時）における
生産用動力の稼働シフトなどにより
生産設備の電力使用を見直すことが非常に効果的です。

右記の節電行動計画をご記入ください。

● 節電行動計画

事業者名		節電目標
責任者名		節電実績

生産設備の節電メニュー		ピーク時間の 電力消費内訳 【削減率%】	×	機械・設備毎の 節電効果目安	=	正負合算に対する 節電効果目標 【削減率%】	実行 チェック	個別に計算 できる場合の 節電目標
不要または待機状態にある電気設備の電源オフ及びモーター等の回転機の空転防止を徹底する。		49 %	×	() %	=	() %	☐ 1	%
電気炉、電気加熱装置の断熱を強化する。 (節電効果:保温施工の実施例)		8 %	×	7 %	=	0.6 %	☐ 2	%
ユーティリティ設備の節電メニュー								
使用側の圧力を見直すことによりコンプレッサの供給圧力を低減する。 (節電効果:単機における0.1MPa低減時)			×	8 %	=	1.2 %	☐ 3	%
コンプレッサの吸気温度を低減する【設置場所の室温と外気温を見合いする】。 (節電効果:単機における吸気温度10℃低減時)			×	2 %	=	0.3 %	☐ 4	%
負荷に応じてコンプレッサ・ポンプ・ファンの台数制御を行う。 (節電効果:コンプレッサ5台システムでピーク負荷60~80%の場合)		15 %	×	9 %	=	1.4 %	☐ 5	%
インバータ機能を持つポンプ・ファンの運転方法を見直す。 (節電効果:弁の開閉状態の確認・調整によりインバータ機能を活用し全圧が80%となった場合)			×	15 %	=	2.3 %	☐ 6	%
冷凍機の冷出水出口温度を高めに設定し、ターボ冷凍機・ヒートポンプ等の動力を削減する。 (節電効果:利用側の状況を確認しながら7℃→9℃へ変更した場合)		9 %	×	8 %	=	0.7 %	☐ 7	%
一般設備(照明・空調)の節電メニュー								
照明	使用していないエリアは消灯を徹底する。		×	() %	=	() %	☐ 8	%
	白熱灯を電球形蛍光灯やLED照明に交換する。 (節電効果:白熱灯60W → ①電球形蛍光灯、②LED照明、に交換した場合)	8 %	×	76 %	=	6.1 %	☐ 9	%
空調	工場内の温度を28℃とする(または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる)。 (節電効果:室内温度設定を2℃上げた場合)		×	6 %	=	0.7 %	☐ 10	%
	外気取入量を調整することで換気用動力や熱負荷を低減する。 (節電効果:換気ファンの間欠運転または停止により30%導入量を低減した場合)	11 %	×	8 %	=	0.9 %	☐ 11	%
	室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。 (節電効果:日射の影響を受ける室外機によしずをかけた場合)		×	10 %	=	1.1 %	☐ 12	%
その他の節電メニュー								
その他	デマンド監視装置を導入し、設定を契約電力△15%とし、警報発生時には予め決めておいた節電対策を実施する。						☐ 13	%
	設備・機器のメンテナンスを適切かつ定期的に実施することでロスを低減する。						☐ 14	%
節電啓発	節電担当者を決め、責任者(社長・工場長)と関係全部門が出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。						☐ 15	
	従業員の夏期の休業・休暇の分散化・長期化を促す。						☐ 16	
	従業員に対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。						☐ 17	
生産用動力の稼働シフトによる電力ピーク抑制								
稼働シフト	バッチ処理工程を早朝や夜間へシフトする(早番・遅番対応等)。						☐ 18	%
	連続処理工程を昼間から夜間へシフトする(熱処理などの加熱工程等)。						☐ 19	%
	事務作業や昼休みの時間を調整し、電力ピークをシフトする。						☐ 20	%
独自対策を追加する場合は下記に記入してください								
							☐ 21	%
							☐ 22	%
							☐ 23	%

※合計欄には実行する節電効果目安の合計を記入してください。
また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それを加えていただいても結構です。

合計 %

ご注意

●記載している節電効果は、機械・設備毎の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。そのため、設備内容や利用状況等によって効果は異なる場合があります。●空調については電気式空調を想定しています。●節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。

※節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

[節電行動計画の記入例]

ー オフィスビル 記入例 ー

節電効果は、一般に単純に合計できませんが、本例では、他の対策も盛り込むことにより、単純合計した効果(△19%)が達成できると見込んでいます。

ピーク時電力(kW)を15%以上削減する目標を立てましょう。

※ピーク時電力の把握が困難な需要家は、月間使用電力量(kWh)で目標を設定しても結構です。

● 節電行動計画

事業者名	株式会社〇〇南東△△営業所	節電目標	昨年夏ピーク比で△19%
責任者名	節電 大作	節電実績	

5つの基本アクションをお願いします		建物全体に対する節電効果(%)	実行チェック	個別に計算できる場合の節電目標
照明	執務エリアの照明を半減程度引きさく。	6%	☒	6%
	使用していないエリア(会議室、廊下等)は消灯を徹底する。	3%	☒	3%
空調	執務室の室内温度を28℃とする(または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる)。	2%	☒	2%
	使用していないエリアは空調を停止する。	0%	☐	0%
OA機器	長時間席を離れるときは、OA機器の電源を切る。	3%	☒	3%
さらに節電効果が大きい以下のアクションも				
空調	本計画に盛り込む節電対策を選びましょう(✓)。 ※基本アクションはできるだけ盛り込みましょう。 ※実施できない対策を盛り込む必要はありません。	5%	☐	0%
	室内のCO ₂ 濃度の基準範囲内で、換気ファンのよって外気取入れ量を調整する(外気導入による)。	3%	☒	3%
	日射を遮るために、ブラインド、遮熱フィルム、ひすいシート等を使用する。	2%	☐	0%
冷凍機の冷水出口温度を高めに設定し、ターボ冷凍機、ヒートポンプ等の動力を削減する(セントラル式空調の場合)。		2%	☐	0%
その他	複数の事業者で交代で休業する。 (7グループに分けて、輪番で週二日休業した場合)	0%	☐	0%
メンテナンスや日々の節電努力もお願いします				
照明	昼休みなどは完全消灯を心掛ける。4分の1の照明を従来の蛍光灯からHf蛍光灯に交換する。	2%	☒	2%
	従来の蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する。(従来の蛍光灯からHf蛍光灯または直管形LED照明に交換した照明電力量の約40%消費電力削減。) $24\% \times (1/4) \times 40\% = \text{約} 2\%$		☒	
空調	フィルターを定期的に清掃する(2週間に一度程度が目安)。		☒	0%
	電気室、サーバー室の空調設定温度が低すぎないかを確認し、見直す。		☐	0%
	室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。		☒	0%
	電気以外の方式(ガス方式等)の空調熱源を保有している場合はそちらを優先運転する。		☐	0%
コンセント動力	朝の涼しい時間帯から設備を起動したり、分散起動すること(複数台数の場合)により、立上げによるピーク電力上昇を抑制する。		☐	0%
	エレベーターやエスカレーターの稼働を半減または停止する。		☐	0%
	電気式給湯機、給茶器、温水洗浄便座、エアタオル等のプラグコンセントから抜く。		☐	0%
その他	自動販売機の管理者の協力の下、冷却停止時間の延長等を行う。		☐	0%
	デマンド監視装置を導入し、設定を契約電力の△15%とし、警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施する。		☐	0%
その他	コージェネレーション設備を所有している場合は、発電優先で運転する。		☐	0%
			☐	0%
従業員やテナントへの節電の啓発も大事です				
啓発	ビル全体の節電目標と具体的なアクションについて、関係全部門・テナントへ理解と協力を求める。		☐	0%
	節電担当者を決め、責任者(ビルオーナー・部門長)と関係全部門・テナントが出席したフォローアップ会議を実施する。		☐	0%
	期の休業・休暇の分散化・長期化を促す。		☐	0%
	テナントに対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。		☐	0%
独自対策を追加する場合は下記に記入してください				
			☐	0%
			☐	0%
			☐	0%
合計欄に合計数値をご記入ください。				19%

※合計欄には実行する節電効果目標の合計を記入してください。また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それに加えていただいても結構です。

●記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。●空調については電気式空調を想定しています。●一定の条件の元での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。●方策により効果が重複するものがあるため、単純に合計はできません。●節電を意図しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。●節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

一製造業 記入例一 (出版印刷の場合) ※飲食業の場合も、製造業の記入例をご参照ください。

- 製造業の方は、左記のオフィスの記入例もあわせてご覧ください。
 - 業種によって電力消費の内訳が異なるため項目によって計算が必要となってきます。
- ①電力消費の内訳(%) × ②節電効果目安(%) = ③節電効果目標(%)

※記入は必須ではありませんので、不明の場合は空欄でも構いません。

● 節電行動計画

事業者名	株式会社〇〇出版		節電目標	昨年夏ピーク比で△16.2%	
責任者名	節電 計子		節電実績		

生産設備の節電メニュー		ピーク時間の電力消費内訳(削減割合)	削減・設備等の節電効果目安	削減・設備等の節電効果目標	実行	個別に計算できる場合の節電目標
不要または待機状態にある電気設備の電源オフ及びモーター等の回転機等の空転防止を徹底する。		49%	(5)% = (2.2)%	143%	☒	2.2%
電気炉、電気加熱装置の断熱を強化する。 (節電効果:保温施工の実施例)		8%	7% = 0.6% (0.6)%	118%	☒	0.6%
ユーティリティ設備の節電メニュー		8%×7% = $\frac{8}{100} \times \frac{7}{100} = \frac{56}{10000} = 0.56\%$ (小数点2位以下は四捨五入)				
使用側の圧力を見直すことによりコンプレッサの供給圧力を低減する。 (節電効果:単機における0.1MPa低減時)						%
コンプレッサの吸気温度を低減する[設置場所の室温と外気温を見合いする]。 (節電効果:単機における吸気温度10℃低減時)						%
負荷に応じてコンプレッサ・ポンプ・ファンの台数制御を行う。 (節電効果:コンプレッサ5台システムでピーク負荷60~80%の場合)		25%	9% = 2.3% (2.3)%	125%	☒	2.3%
インバータ機能を持つポンプ・ファンの運転方法を見直す。 (節電効果:弁の開閉状態の確認・調整によりインバータ機能を活用し全圧が80%となった場合)			15% = 3.8% (3.8)%		☒	3.8%
冷凍機の冷水出口温度を高め、ターボ冷凍機・ヒートポンプ等の動力を削減する。 (節電効果:利用側の状況を確認しながら7℃→9℃へ変更した場合)		9%	8% = 0.7% (0.7)%	141%	☒	0.7%
一般設備(照明・空調)の節電メニュー						
照明	使用していないエリアは消灯を徹底する。		(10)% = (0.7)%		☒	0.7%
	白熱灯を電球形蛍光灯やLED照明に交換する。 (節電効果:白熱灯60W → ①電球形蛍光灯、②LED照明に交換した場合)	8%	76% = 16.1% 85% = 6.8% (5.3)%	171%	☒	5.3%
空調	工場内の温度を28℃とする(または、風通しなど室内環境に配慮しつつ、28℃より若干引き上げる)。 (節電効果:室内温度設定を2℃上げた場合)		6% = 0.7% ()%		☐	%
	外気取入量を調整することで換気動力や熱負荷を低減する。 (節電効果:換気ファンの間欠運転または停止により30%導入量を低減した場合)	11%	8% = 0.9% (1)%	113%	☒	1%
	室外機周辺の障害物を取り除くとともに、直射日光を避ける。 (節電効果:直射日光の影響を軽減し、室外機による発熱を低減した場合)		10% = 1.1% ()%		☐	%
					☐	%
					☐	%

※合計欄には実行する節電効果目安の合計を記入してください。 また、個別に計算できる節電目標がある場合は、それを加えていただいても結構です。		合計	16.2%
--	--	----	-------

ご注意

●記載している節電効果は、機械・設備毎の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。そのため、設備内容や利用状況等によって効果は異なる場合があります。●空調については電気式空調を想定しています。●節電を意識するあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。

※節電行動計画は建物の実質的な使用責任者と建物の管理者が協議のうえ作成してください。

表 業種別電気負荷設備容量構成比(例)

	空調	照明	コンプレッサ・ポンプ・ファン	冷凍機	電気炉・電気加熱装置	その他生産設備等	合計
金属加工	13%	4%	25%	3%	9%	46%	100%
食料品	8%	10%	10%	22%	9%	41%	100%
出版印刷	13%	7%	25%	4%	8%	43%	100%
電気機械	18%	5%	11%	5%	13%	48%	100%
一般機械	6%	16%	10%	8%	2%	58%	100%
輸送用機械	10%	7%	9%	9%	6%	59%	100%
上記6事例の平均	11%	8%	15%	9%	8%	49%	100%

※上記表の構成比をご参考いただき、「ピーク時間の電力消費内訳」欄に数字をご記入ください。

※不明な場合は、欄中に記載されている値をご使用ください。

〈お問い合わせ〉

政府では、節電行動計画を実施していただくための
情報を政府の節電ポータルサイト「節電.go.jp」で紹介しています。

■ 政府の節電ポータルサイト「節電.go.jp」

■ <http://www.setsuden.go.jp>

節電に関する様々なお問い合わせに、専門ダイヤルでお答えします。

■ 節電ダイヤル

■ TEL.0570-064-443 (受付時間9:00～17:00)

節電宣言ポスターの使い方

①ご記入いただいた「節電行動計画」をポータルサイトに公表するとともに、事務所や
店舗の見やすい場所に掲示しましょう。

②より分かりやすい行動計画を掲示したい方は、右頁にあるポスターをご活用ください。

※裏表紙のポスターは、会社名や事業所名を書いてご活用いただけるようになっています。

【ポスター記入例】

この夏の節電活動計画

取り組む

- ✓ ① 照明は半分だけにしています。
- ✓ ② 冷房の温度は、28℃です。 ゴメンナサイ
- ✓ ③ うちわ貸出中です! 

ほかの取り組みも記入してください。

2011年 〇月 〇日



昭和四十四年九月

昭和四十四年九月



昭和四十四年九月

昭和四十四年九月